

■ 2006年12月15日(金曜日)

歴史文化の香りただよ

築城四百年

福井城址を憩いのスポットに

今年、築城から400年を迎えた福井城址。これを機会として、県では、この歴史的遺産を活用し、県民の皆さんに広く親しまれ、気軽に訪れてもらえる憩いの場となるよう整備を進めています。

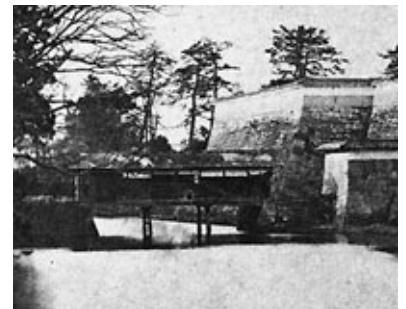
これまでに散策路やお堀のライトアップなどの整備を行い、引き続き、福井市と共同で「御廊下橋(おろうかばし)」の復元を進めています。多くの皆さんの参加・ご協力をお願いします。

みんなの御廊下橋に

今年は、福井城が築城されて400年の節目の年に当たります。

そこで、県ではこれまで、平成17年度には、天守跡周辺を整備し、散策しやすいように階段の手摺やベンチを設置。植栽と樹木の剪定も行いました。また、お堀の石垣や桜をライトアップ。夜景を演出する整備も行いました。

今年度は、県庁正面の石垣の上からお堀を眺望できるよう散策路を整備。カラ井戸となっていた「福の井」にも水風景を再現しました。



往時の御廊下橋(福井市立郷土歴史博物館蔵)

● 往時の姿に復元

現在、県と福井市では、福井城址の魅力をさらに高めるため、県庁西側に架かる「御廊下橋」の復元整備を進めています。

この橋は、藩主の住まいがあった現在の中央公園からお堀の中の本丸への「藩主専用の通勤路」として使用されていたもので、橋には屋根と壁があり、廊下のような形をしていたと考えられています。今回の計画では、できる限り往時の姿に復元するため、歴史や建築の専門家の方々と構成する「御廊下橋復元考証専門委員会」を設置し、検討を進めています。

● 多くの県民の参加で整備

復元にあたっては、できるだけ多くの皆さんの声を反映するため「御廊下橋整備推進委員会」を設置。各分野でご活躍の方々から意見をいただいています。

これまで2回の委員会では、県民参加を進めるためのアイデアを検討。500円の寄附をいただいた方をワンコインサポーターと称して、その記念に全国で福井藩が最初に発行されたと言われる藩札のレプリカ(複製)を配布する案、また、橋の材料となるヒノキの板を購入していただき、その板に名前などを書いて橋の壁に貼り付けてもらう案などが出されています。

県民の皆さんと協働で取組むことをテーマの1つとしている御廊下橋の整備。多くの方にご参加いただき、「みんなの御廊下橋」として整備を進めたいと考えています。

橋の復元は、現在の橋と同様に通路として利用できるよう考慮すること、また、歴史性を表現しながらコスト削減を図ることを基本方針とし、来春から工事に着手。平成19年度中の完成を目指しています。完成後は、歴史的遺産である福井城址の景観に、歴史文化の香りをさらに添えるものとなり、既に整備した散策路や天守跡とあわせて、県民の皆さんから親しまれるスポットになるものと考えています。

六十八万石の
福井城を語る

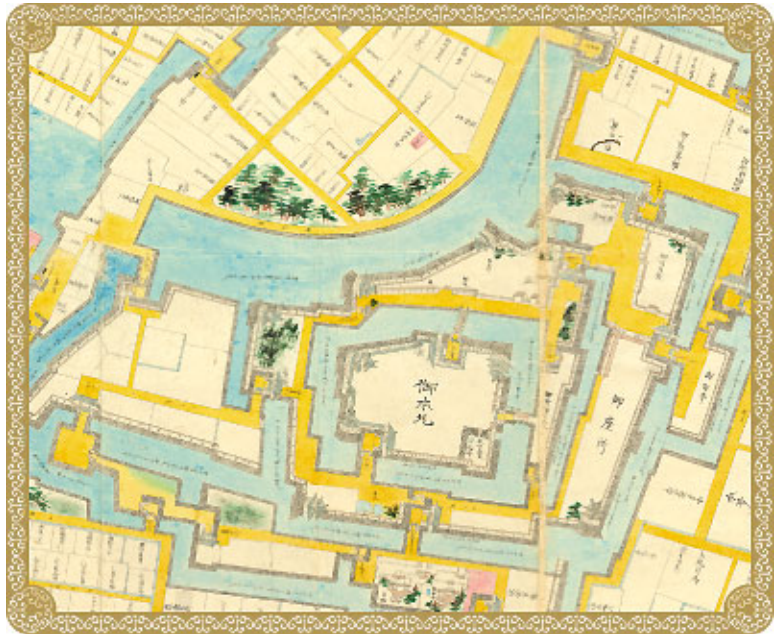


御廊下橋復元
考証専門委員会委員
(福井市文化財保護委員)
舟澤茂樹さん

●築城四百年

慶長11(1606)年、この年福井藩の正史である『家譜』によると「北庄御城…今年悉御成就」とあり、壮大な城郭が完成したことを伝えている。本年は、それから400年目の節目の年にあたる。

藩祖結城秀康は、関ヶ原戦の大功で越前一国68万石を拝領した。隣国の加賀・能登・越中三国119万石を領有する外様の雄、前田利長に次ぐ大国の領主となったのであった。秀康は、北陸支配の要の地、越前を万全に支配するためにその威信をかけて北庄(福井)に堅固な城と城下町を築いたのであった。上掲の史料には「御本丸・二ノ丸ハ神君御指図之御縄」ともある。城普請の中核が父徳川家康の指図に基づくものであったとすれば、その築城は天下普請であったともいえるのである。



御城下絵図[松平文庫蔵(福井県立図書館保管)]
上が現在のJR福井駅方面

●環郭式の大規模な城郭

福井城は本丸を中心に曲輪(くるわ)が幾重にも囲む典型的な環郭式(輪郭式)の形態であった。その城郭は、外堀と足羽・荒川両河川で囲まれている。その外堀は、西は片町通りに沿い、北は神明神社と松ヶ枝公園(宝永1丁目)を結ぶ線上にある。西側の外堀は、本町通りと交わる地点に桜御門、さくら通りとの接点に柳御門があり、桜御門は「大馬出」とも称し大手に当たった。

本丸の周囲には多くの堀がめぐらされていたが、最も大きくて深かったのが東南側の百間堀であり、その最大幅は75メートルであった。それは現在のJR福井駅前一带に広がっていたが、その一部は昭和10年代にも残存していたので、記憶にある人もいることであろう。

●本丸界隈

本丸といえばその象徴は天守閣である。秀康の築いた四重五階の天守は、天守台も含め高さ約40メートルの雄大なものであった。しかし、寛文9(1669)年の大火で焼失し、その再建は許されなかった。その後、本丸の偉容を辛くも保ったのは正面に当る東南隅(巽)と西南隅(艮)の両三重櫓であった。

本丸内には総床面積1000坪余の広大な屋敷があった。この本丸御殿の「表(おもて)」には政庁や儀式の空間である書院・大広間があり、「中奥(なかおく)」と称する藩主の住居部分や「奥向(おくむき)」には女官の詰所など多くの部屋があった。その奥向の建物2棟が城外に移設され、福井市郊外の瑞源寺(足羽5丁目)に本堂・書院(いずれも県指定文化財)として現存している。

ところで、藩主の住居としては、西三ノ丸(県民会館付近)の御座所が用いられたことも多かった。藩主松平慶永(春嶽)の著書『真雪草紙(みゆきぞうし)』によると5代昌親(後に吉品)、12代重富・13代治好と慶永自身、それに最後の藩主17代茂昭の5人が三ノ丸御座所に居住していたようである。

本丸と三ノ丸御座所への往復に用いられたのが藩主専用の御廊下橋であった。

●御廊下橋

西三ノ丸御座所に住居した藩主も政務をみたり、儀礼の任務を果たしたり、賓客との接見などで日々本丸に赴いている。本丸から三ノ丸に向かうには二ノ丸の山里曲輪を経由したが、そこに御廊下橋が架せられていた。「山里」の名が示すように野趣に富んだ曲輪で、藩主の気晴らしに利用されていた。だが後世の絵図では武器庫が置かれてかなりその様相も変わっている。

●福井市域に残された最後の歴史遺産

福井城の本丸城址はその規模が大きく、石垣・堀ともに往時の景観をよくとどめている。大坂城本丸・江戸城本丸といった天下人や將軍の城址は別として大名の本丸城址として福井城址は最大規模のものといっても過言ではない。

福井市は、柴田勝家の築城により430年前に城下町として成立した都市であった。そのことを示す歴史遺産としてこの本丸城址を後世に伝えていくことは県民に課せられた責務ともいえるのではないだろうか。

県民と共に造り上げ 愛着の持てる橋へ



(福井男女共同参画
ネットワーク常任理事)
清水れい子さん

この度の御廊下橋の整備は、福井城址の魅力をより一層引き立てるものとなり、気軽に散策できる県民の憩いの場となることを想像すると、今から大変楽しみです。

私は、委員の1人として参加させていただき、他の委員の方々とともに、行政の事業にいかにして県民が参加し、ともに造り上げていく実感を得られるか、などの意見を交わしています。

復元される橋は、やはり県民の理解や愛着が得られるものでなければならないと思います。できるだけ多くの段階で多数の県民が参加し、様々な学習や体験を通して御廊下橋そのものに対する理解や愛着を持っていただくために、例えば橋の材料となる県産材に触れてもらい、県民自らが橋に板を貼り付けるようなイベントなどが考えられます。

また、橋の完成後には、県民が集い、福井の歴史や自然を感じられる仕掛けとして、福井城址の桜やお堀、越前時代行列との連携などのアイデアも提案できればと思います。さらに、その魅力を多くの方々に知っていただくために、PRの仕方も併せて考えていく必要があります。

今回の整備を1つのきっかけとして、世代や立場を越えた人々の、出会い、ふれあいを大切に、県民の新たな連帯が創り出せるよう、お手伝いをさせていただきたいと思います。

城址の見どころ



天守跡：
木製のベンチを設置し、憩いの場となっています



ライトアップ：
街灯と調和したオレンジ色の幻想的な夜景が楽しめます



散策路：
石垣の上からお堀や街並みが望めます



福の井：
「福井」の名の由来となったとも言われる井戸です



川舟：
お堀の清掃や石垣の点検に利用し、風情を醸し出しています

この記事に関するご意見・お問い合わせは、
福井県財産活用課 TEL0776(20)0252
までどうぞ

